

奄美群島江仁屋離島から得られた琉球列島初記録の ホウボウ科魚類トゲカナガシラ

吉田朋弘¹・本村浩之²

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究所

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

トゲカナガシラ *Lepidotrigla japonica* (Bleeker, 1854) をはじめとするホウボウ科 Triglidae 魚類は、胸鰭の下側 3 軟条が遊離しており、これらを使用して海底を歩くように移動し、餌生物を探すという特異的な生態をもつことが知られている(矢頭, 1997; 木村ほか, 2004)。本科魚類は日本近海に 3 属 19 種が分布しており、そのうちカナガシラ属 *Lepidotrigla* はソコカナガシラ *L. abyssalis* Jordan and Starks, 1904, イゴダカホデリ *L. alata* (Houttuyn, 1782), カナド *L. guentheri* Hilgendorf, 1879, ヒメソコカナガシラ *L. hime* Matsubara and Hiyama, 1932, トゲカナガシラ, ヒレナガカナガシラ *L. kanagashira* Kamohara, 1936, オニカナガシラ *L. kishinouyei* Snyder, 1911, ツラナガソコカナガシラ *L. longifaciata* Yatou, 1981, カナガシラ *L. microptera* Günther, 1873, ヒレホシカナガシラ *L. punctipectoralis* Fowler, 1938, およびボウズカナガシラ *Lepidotrigla* sp. の 11 種が国内から報告されている(山田・柳下, 2013)。

これまで、トゲカナガシラは国内において兵庫県浜坂から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸、岩手県、千葉県外房から九州南岸の太平洋沿岸、

瀬戸内海、東シナ海の大連棚域から記録されていた(山田・柳下, 2013)。

国立科学博物館所蔵標本の中から、大島郡瀬戸内町江仁屋離島から得られたトゲカナガシラが 1 個体見つかった。本標本は本種の琉球列島沿岸からの初記録となるため、ここに報告する。

■ 材料と方法

計数・計測は主に Hubbs and Lagler (1947) と河合ほか(2003)にしたがい、頭部の棘の名称は落合・矢頭(1984)にしたがった。胸鰭遊離軟条は上から順に第 1 遊離軟条, 第 2 遊離軟条, 第 3 遊離軟条とした。標準体長は体長と表記し、デジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった。本報告に用いた標本は、国立科学博物館に保管されている。

■ 結果と考察

Lepidotrigla japonica (Bleeker, 1854)

トゲカナガシラ (Fig. 1)

標本 NSMT-P 100745, 体長 82.5 mm, 鹿児島県大島郡瀬戸内町江仁屋離島, 底曳網, R/V Tansei-maru.

記載 背鰭鰭条数 IX, 14; 臀鰭軟条数 14; 胸鰭軟条数 14; 腹鰭鰭条数 I, 5; 側線有孔鱗数 54; 鰓耙数 1 + 10 = 11.

体各部測定値の体長に対する割合 (%) : 体高 27.8 : 体幅 19.9 : 頭長 33.5 : 眼径 11.9 : 両眼間隔 6.4 : 吻長 15.2 : 上顎長 14.4 : 尾柄長 13.8 : 尾柄高 6.8 : 背鰭前長 36.5 : 背鰭第 1 棘長 15.5 : 背鰭第 2 棘長

Yoshida, T. and H. Motomura. 2017. *Lepidotrigla japonica* (Triglidae) from Eniyabanare-jima island, Amami Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan: first record from the Ryukyu Islands. *Nature of Kagoshima* 43: 89-92.

✉ TY: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k5299534@kadai.jp).



Fig. 1. Preserved specimen of *Lepidotrigla japonica*. NSMT-P 100745, 82.5 mm standard length, Eniyabanare-jima island, Amami Islands, Kagoshima, southern Japan.

21.3 : 背鰭第 3 棘長 19.5 : 背鰭第 4 棘長 19.6 : 背鰭第 5 棘長 15.2 : 背鰭第 6 棘長 10.8 : 背鰭第 7 棘長 7.0 : 背鰭第 8 棘長 3.9 : 背鰭第 9 棘長 2.2 : 臀鰭前長 56.0 : 胸鰭長 52.0 : 胸鰭第 1 遊離軟条 31.4 : 胸鰭第 2 遊離軟条 25.6 : 胸鰭第 3 遊離軟条 21.5 : 腹鰭前長 33.0 : 腹鰭棘条長 18.8 : 腹鰭最長軟条長 32.5.

体は中庸である。頭部側面上方に項棘を備え、胸鰭基部直上に長く鋭い上膊棘を備える。前鼻孔は短い鼻管の先端に開口し、後鼻孔は孔状である。上下顎骨歯は微小な円錐歯が歯帯を形成する。鋤骨には 1–2 列の微小な円錐歯が並ぶ。口蓋骨に歯がない。側線は完全で、鰓蓋後端上端から尾柄後端まで、一直線に走る。第 1 背鰭始部は腹鰭挿入部直上に位置する。第 1 背鰭第 1–3 棘の前縁は鋸歯状である。第 2 背鰭始部は臀鰭始部直上に位置する。胸鰭基底上端は腹鰭挿入部直上に位置する。胸鰭は著しく長く、その先端は臀鰭第 12 軟条基部直上を越える。胸鰭遊離軟条は一番上が最長で、その先端は臀鰭第 3 軟条基部直上に達する。尾鰭は湾入形である。

固定後の色彩 体色は一様に淡黄色を呈し、胸鰭を除く各鰭は透明である。胸鰭内側の上から 1–6 軟条の鰭膜は黒褐色を呈する。

分布 *Lepidotrigla japonica* は日本、韓国、および台湾に分布する (山田・柳下, 2013)。本種は国内では岩手県 (丸山, 1971)、兵庫県浜坂町 (鈴木・宇野, 1993)、島根県萩川沖 (松本, 2005 ;

森脇ほか, 2007)、山口県日本海側 (河野ほか, 2011)、長崎県橘湾 (篠原ほか, 1998)、千葉県波左間 (木村ほか, 2004)、相模湾 (Senou et al, 2006)、静岡県熱海沿岸 (瀬能ほか, 1998)、三重県尾鷲・木本 (鈴木・片岡, 1997)、愛知県三河湾 (荒尾・玉井, 2011)、和歌山県白浜 (荒賀, 1985)、田辺湾 (池田・中坊, 2015)、高知県 (Kamohara, 1958)、土佐湾 (Shinohara et al., 2001)、須崎市沖 (井手ほか, 2003)、以布利 (御所, 2001)、渭南 (大植ほか, 1953)、柏島 (平田ほか, 1996)、愛媛県愛南 (平田ほか, 2010)、宮崎県日向灘南沖 (椎名, 2009)、鹿児島県大隅半島東側 (財団法人鹿児島市水族館公社, 2008)、薩摩半島西側 (財団法人鹿児島市水族館公社, 2008)、奄美群島江仁屋離島 (本研究)、および東シナ海 (山田ほか, 2007) などから記録されている。

備考 江仁屋離島から採集された標本は、第 2 背鰭基底に小棘のある骨質板を有すること、胸鰭が長く、その後端は第 2 背鰭中央直下をはるかに越えること、吻端に顕著な棘を有することなどから、山田・柳下 (2013) が記載したトゲカナガシラの標徴とよく一致したため、本種に同定された。

Lepidotrigla japonica (Bleeker, 1854) は長崎県から得られた 3 標本に基づき新種として記載された。その後、Steindachner and Döderlein (1887) は本種を報告したが、この時点で本種に対して和名が与えられていなかった。続いて、Jordan et al.

(1913)は本種に対して和名「トゲカナガシラ」を提唱した。現在までにトゲカナガシラは岩手県以南の太平洋沿岸、瀬戸内海、兵庫県浜坂町以南の日本海・東シナ海沿岸から記録されていた(山田・柳下, 2013)。したがって江仁屋離島から採集された1個体は、トゲカナガシラの琉球列島沿岸からの初記録となる。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、国立科学博物館での標本調査では、中江雅典博士に便宜を図っていただいた。また、鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さま、同博物館魚類分類学研究室の皆さまには本原稿に対し適切な助言をいただいた。以上の諸氏に対して謹んでお礼を申し上げる。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は笹川科学研究助成金(29-747)、JSPS 科 研 費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265)、JSPS 研究拠点形成事業—アジア・アフリカ学術基盤形成型—「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とそその保全に関する教育研究拠点整備」、公益財団法人屋久島環境文化財団「屋久島生物多様性保全研究活動奨励事業」、および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性プロジェクト)学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

荒賀忠一. 1985. トゲカナガシラ *Lepidotrigla japonica*. P. 139. 小西和人(編), さかな大図鑑. 株式会社週刊釣りサンデー, 大阪.

荒尾一樹・玉井隆章. 2011. 愛知県一色漁港に水揚げされた魚類. 豊橋市自然史博物館研報, 21: 17-26.

御所豊徳. 2001. トゲカナガシラ. P. 177. 中坊徹次・町田吉彦・山岡耕作・西田清徳(編), 以布利 黒潮の魚. 海遊館, 大阪.

平田智法・高木基裕・平田しおり. 2010. 生態編. Pp. 14-171. 高木基裕・平田智法・平田しおり・中田 親(編), 愛媛愛南お魚図鑑. 創風社出版, 松山.

平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996. 高知県柏島の魚類相. 行動と生態に関する記述を中心として. 高知大学海洋生物教育研究センター研究報告, (16): 1-177.

Hubbs, C. L. and Lagler, K. F. 1947. Fishes of the Great Lakes region. Bulletin of Cranbrook Institute of Science, 26: i-xii + 1-186.

井手幸子・町田吉彦・遠藤広光. 2003. 小型底曳き網漁船による高知県須崎市沖の底生性魚類. 高知大学海洋生物教育センター研究報告, (22): 1-35.

池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.

Jordan, D. S., Tanaka, S., and Snyder, J. O. 1913. A catalogue of the fishes of Japan. Journal of the College of Science. Imperial University, Tokyo, 33 (1): 1-497.

Kamohara, T. 1958. A catalogue of fishes of Kochi Prefecture (Province Tosa), Japan. Report of the Usa Marine Biological Station, 5(1): 1-76.

河合俊郎・今村 央・仲谷一宏. 2003. 東北太平洋沿岸から記録されたキホウボウ科魚類3種. 北海道大学水産科学研究彙報, 54 (1/2): 13-16.

木村喜芳・鈴木宏和・萩原清司. 2004. 波左間の魚類: ホウボウの仲間. I. O. P. Diving News, 15 (10): 6.

河野光久・土井啓行・堀 成夫. 2011. 山口県日本海産魚類目録. 山口県水産研究センター研究報告, (9): 26-64.

丸山 潔. 1971. 岩手県産魚類目録. 岩手県水産試験場研究報告, (1): 1-70.

松本洋典. 2005. 島根県敬川沖における魚類の出現特性(I). 島根県水産試験場研究報告, 12: 79-86.

森脇晋平・若林英人・為石起司. 2007. 島根県敬川沖における魚類の出現特性—III—底生魚類群集の経年変動—. 島根県水産技術センター研究報告, 1: 1-10.

落合 明・矢頭卓兒. 1984. ホウボウ科. Pp. 318-320, pls. 299-300. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫(編), 日本産魚類大図鑑. 初版. 東海大学出版会, 東京.

大植登志雄・伊藤孟夫・森川国康・沢田允明・村上節太郎・豊田英義・八木繁一・影浦 勉. 1953. 宇和海及び渭南海岸動物目録. Pp. 50-65. 愛媛県土木部都市計画課(編), 自然公園調査書渭南海岸. 愛媛県土木部都市計画課, 松山.

椎名雅人. 2009. 四国・九州太平洋沖合の底曳網漁業で採集された魚類. 2009年(平成21年度)宇和島水産高校水産増殖科専攻科紀要, (16): 48-54.

Shinohara, G., Endo, H., Matsuura, K., Machida, Y. and Honda, H. 2001. Annotated checklist of the deepwater fishes from Tosa Bay, Japan. Monographs of the National Science Museum Tokyo, 20: 283-343.

篠原現人・松浦啓一・白井 滋. 1998. 長崎県橘湾の魚類. 国立科学博物館専報, (30): 105-138.

瀬能 宏・牧内 元・武谷 洋. 1998. 魚類写真資料データベース(KPM-NR)に登録された水中写真に基づく熱海産魚類目録. 神奈川自然資料, (19): 19-28.

Senou, H., Matsuura, K., and Shinohara, G. 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with Zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. Memoirs of the National Science Museum, 41: 389-542.

- Steindachner, F. and Döderlein, L. 1887. Beiträge zur kenntniss der fische Japan's. (IV.). Denkschriften der kaiserlichen Akademie der Wissenschaften zu Wien, 53: 257–296.
- 鈴木 清・片岡照男. 1997. 三重県の海産魚類. 鳥羽水族館, 鳥羽. 297 pp.
- 鈴木寿之・宇野政美. 1993. 魚類図鑑 浜坂町の沿岸魚. 浜坂町, 浜坂. 34 pp.
- 山田梅芳・時村宗春・細川博史・中坊徹次. 2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 東京. lxxiv + 1263 pp.
- 山田梅芳・柳下直己. 2013. ホウボウ科. Pp. 720–726, 1951. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 矢頭卓兒. 1997. ホウボウ科. Pp. 214–217. 岡村 収・尼岡邦夫 (編), 日本の海水魚. 初版. 山と溪谷社, 東京.
- 財団法人鹿児島市水族館公社. 2008. かごしま水族館が確認した鹿児島の定置網の魚たち. 財団法人鹿児島市水族館公社, 鹿児島市. 260 pp.